

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月21日

【評価実施概要】

事業所番号	267800204
法人名	マイクロテスト株式会社
事業所名	グループホームまごころ城陽
所在地	京都府城陽市富野清水68番地5 (電話) 0774-54-7761

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成19年12月21日	評価確定日	平成20年12月12日

【情報提供票より】(平成19年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 8 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 18 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨モルタル 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000 円	その他の経費(月額)	38,000 円	
敷 金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(138,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 入居者の概要(11月30日現在)

入居者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	8 名		
要介護3	8 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	京都市づ川病院、第二岡本総合病院、高橋内科医院、田坂歯科医院・服部歯科医院・本田歯科クリニック
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路に面した立地でありながら、周辺はのどかな田園風景が広がり、近くには大型スーパーがあり大変便利で生活しやすい地域にあるホームです。代表は“地域貢献”と“自分の親を入れたい”という思いからホームを開設し、管理者、職員は「心はずむ・やさしさの輪」を基本理念とし、日々入居者の笑顔、職員自身の笑顔につながるケアを一丸となって実践されています。医療機関との連携を通して、医師と看護師が同行する一泊旅行も恒例とされており、入居者、家族の楽しみとなっています。入居者は、個々に役割を持ち、助け合いながらあたたかいホームで生き活きと過ごされています。また、運営推進会議や市の委託事業である「物忘れ予防教室」の開催を通して、少しずつ地域にも溶け込んでいます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	契約書への入居者の権利の明記、玄関まわり、書類のファイリング工夫、個人記録の充実、補助具の取り付けなど改善課題に向けて職員で話し合い、出来ることから検討され、前回の課題については改善に向けて取り組まれています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は、外部評価の意義を理解しており、今回の自己評価についても、管理者、リーダーが中心になり、職員全員と協議し、気づきを取り入れながら作成されています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームでの行事や近況報告をはじめ、様々な情報をもらったり、地域行事への参加協力や、意見交換を通してサービスの向上に活かしています。また、介護予防普及啓発事業として「スリーA方式による物忘れ予防教室」の委託事業の取り組みなどが討議され、実践されています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族がホームに来られた際や電話等、年に2回の家族会、運営推進会議にて意見や要望を表す機会を設けています。また、外部も含め、苦情対応窓口について、書類に記載し案内しています。家族からの意見や苦情は記録され、誠意を持って対応されています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治連合会の方の理解を得て夏祭りなどの地域行事に参加したり、近所の幼稚園とも交流があり、園児がホームに園だよりを持ってきたり、行事に招かれるなど、積極的な交流をしています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分の親を、また、自分が入りたいと思える施設をつくりたいという創設者の熱い思いから“心はずむ・やさしさの輪”を基本理念に掲げ、地域の中でその人らしく優しさ笑顔のある暮らしができるよう日々実践に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は、毎朝基本理念と7つの約束(事業指針)を唱和すると共に、「入居者の笑顔はあったか?」「優しさをもってケアができたか?」を常に振り返りながら理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の幼稚園の運動会などの行事に参加したり、園便りを届けてもらうなど交流をしている。また、運営推進会議を通じて地域との交流を図り、夏祭りに参加するなど地域に根ざした関係づくりに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、外部評価の意義を理解し、前回評価での改善項目については、職員間で話し合い、改善に向けて取り組まれている。今回の自己評価についても、管理者、リーダーが中心になり、職員全員と協議し、気づきを取り入れながら作成されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族、自治会長、民生委員、地域包括職員、市担当者が参加する運営推進会議では、ホームからの報告をはじめ、さまざまな情報をもったり、意見交換を通してサービスの向上に活かしている。		

グループホームまごころ城陽

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、専門性を活かした積極的な取り組みである、介護予防普及啓発事業の「スリーA方式による物忘れ予防教室」の委託事業を通じてやケアマネ連絡会などで顔を合わせての連絡や相談をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや日々の様子、職員の異動などはホームに来られたときや電話やファックスなどで報告している。また、バースデーカードや写真を同封したり、遠方のご家族や親戚の方への報告を兼ねて写真をホームページにも掲載している。	○	グループホーム便りの発行の検討や入居者別の最近の様子や、行事予定、行事報告を書面にて伝える事が今後期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームに来られた際や電話等、年に2回の家族会、運営推進会議にて意見や要望を表す機会を設けている。また、外部も含め、苦情対応窓口について、書類に記載し案内している。家族からの意見や苦情は記録され、誠意を持って対応されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者との馴染みの関係が長く継続できるよう、法人による異動は最小限に留められている。やむを得ない場合は、入居者に徐々に馴染んでもらえるように情報伝達の徹底や勤務方法を工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や、年間計画が立てられている社内研修、グループ討論を実施し、意見を積極的に言う場となっている事業所内研修に参加しており、また外部研修にも参加している。研修参加後は伝達研修を行い個々の知識や技術の向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護支援専門員の連絡会やグループホーム協会での研修などを通じて同業者との交流を図っている。また、オーナーの会を通じて、情報交換や職員同士の交流なども検討されている。		

グループホームまごころ城陽

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に出来るだけ見学に来ていただき、雰囲気に馴染んでいただけるように配慮している。また、その方に合わせた環境が整えられるよう家族を交えて検討されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の生活の中で、料理や裁縫、礼儀作法を入居者に教えていただくなど個々の得意なことを教わりながら、共に過ごし、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の情報を基に、独自のアセスメント方法にて日々の生活の中でご本人の思いや希望の把握に努めている。積極的に希望を表現されない方もタイミングを図りながら思いを把握するように努め、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	自分らしく暮らせるよう、日々の生活の中で本人の思いや希望を聞き取り職員間でカンファレンスを行い、家族や医師の意見も反映させた入居者主体の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化に応じて随時見直しをしている。基本的には3ヶ月に1回、モニタリングを実施し、介護計画の見直しが行われている。		

グループホームまごころ城陽

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容院や喫茶店、書店などの個別の外出や通院介助、また、入院生活においても手術の付き添いなど、常にその時々々の要望に応じて柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に主治医の希望を聞いている。24時間対応可能な事業所の協力医による健康管理や歯科医の往診なども行っている。また、ホームからの旅行に医師、看護師も同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所で出来ること・出来ない事の方針を家族に理解いただき、家族、医師、職員で話し合いながらケアに取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入居者に対する言葉掛けやプライバシーの保護について常に意識し、不適切な対応がないよう心掛けている。個人情報事務室の棚で管理されており、不要な書類はシュレッダーにて処分している。また、パソコンのデータについても徹底管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールは大まかな日課のみに留め、その日の本人の状態や気持ちを優先し、個々の生活リズムを大切にした支援を実施している。		

グループホームまごころ城陽

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は出来るだけ一緒に買い物に行った際に決め、調理や準備、後片付けなど出来る事を積極的に参加してもらっている。また、職員と一緒に楽しく食事、団欒している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後2時から4時の間を基本に毎日希望に配慮し、実施している。現在、夜間入浴の希望があれば対応できるよう検討されたり、また、銭湯に行く計画も検討中である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫の得意な方は、ボタン付けや座布団カバー作り、習字の得意な方はカラオケの歌詞カード作り、歌の好きな方が歌詞カードを見て歌うなど、日々の生活の中に生活歴や力量に応じた役割があり、入居者は生き生きと生活されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買物だけではなく、近所の神社や田んぼの畦道や堤防沿いを散歩したり、喫茶店でゆっくり会話を楽しむなど支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、施錠することの弊害を理解し、日中は鍵をかけないケアを実施している。立地が道路沿いであるため、危険があるが、玄関にはチャイムが設置されており、外に出られたときはすぐに職員が同行できるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害時の消防計画を作成し、消防署に提出している。緊急時には地域の方々の協力が得られるよう運営推進会議等で働きかけている。	○	現在検討されている防災計画の整備、地域住民との協体制の確立に加えて、避難訓練や、通報、消火器具の使い方の訓練などの実施の検討が期待される。

グループホームまごころ城陽

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個々の健康状態や身体状況に応じた形態で提供され、食事摂取量や水分量についても記録されている。食事は新鮮な季節の食材を選んだり、栄養バランスがとれるように配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調理の音や匂いなど生活感を感じてもらえるように対面キッチンになっており、リビングには季節感が出るように装飾品を工夫し、居心地良い空間づくりに配慮している。また、壁には手作りのカレンダーや入居者の作品、楽しかった思い出の一泊旅行や花見の写真が飾られ、元気で過ごしたい、過ごしてほしいと願う家族や職員の思い、“優しさの輪”の理念が伝わってくる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や仏壇、写真や受賞の賞状など個々の大切なものが置かれ、居心地良い居室部屋作りを支援している。		